



和光の緑と湧き水だより 会報 Verda 186号

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 会報 2018 年 3 月号 代表理事 高橋絹世 (462-9912)

身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

2018 年 3 月、4 月の主な予定表

予定	全体会	新倉ふれあいの森	富沢湧水・大坂ふれあいの森	樹林公園
3 月	28 日 県共助社会づくり課説明会	17 日 定期保全	10 日 (土) 富沢湧水調査保全 14 日 大坂ふれあいの森	2 日 (第 3 回樹木再生検討会)
4 月	6 日 カタクリ・ニリンソウを訪ねるエコツアー 28 日 (土) 第 11 回総会 29 日 (日) つつじ祭り	21 日 春の野草観察とタケノコほり	18 日 大坂ふれあいの森 29 日 つつじ祭り 湧き水探検	幼樹苗を樹林地内で育成 (3 月末予定)

1. 2018 年度 第 11 回総会の開催のお知らせ

日程 : 2018 年 4 月 28 日 午前 10 時~午後 2 時半

会場 : 白子コミュニティーセンター 3 階 視聴覚室

2017 年度を振り返り、会員皆さまが思いを込めて新たに 2018 年度の活動を進めていく総会にしていきたいと思ひます。総会資料は後日、4 月初旬に配布します。

2017 年度の主な活動は、和光市環境マップを活用した「地学団体研究会と共催の日曜地ハイ」、9 月には「お茶の水女子大学地理学巡検」で 20 名の学生と長谷川直子准教授とのコラボレーション、学校応援団として身近な環境の紹介、新倉ふれあいの森や白子、樹林公園での各種観察会、各地の保全活動、和光樹林公園樹木再生検討会委員として樹林公園の再生を検討中、春のつつじ祭り、秋の市民祭りにも参加し活動を紹介しています。モニ 1000 里地調査の全国発表交流会、文理シナジー学会でも発表しました。

漆台地区では、カタクリ群生地が開発されることになり、4 月末にカタクリの球根を掘り出し、大坂ふれあいの森、富沢湧水、新倉ふれあいの森に移植を試み、3 月に発芽が見られ、新たな地域で生育し始めました。移植は、開発地ではやむを得ないことで、和光の貴重な植物の維持にふれあいの森が役立っています。



モニ 1000 全国発表会パネル



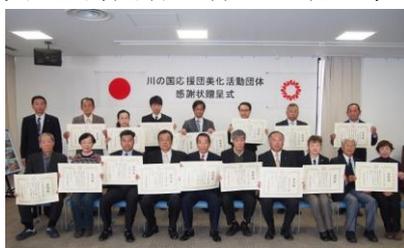
日曜地ハイ 白子から樹林公園観察

2. 川の国応援団美化活動団体として感謝状を埼玉県から授与されました

川の国応援団美化活動団体として、埼玉県より立派な「感謝状」を贈呈されました。この賞状は、今までの活動実績及び今後の活動見込みを踏まえて推薦していただきました。

会では、白子の富沢湧水や大坂ふれあいの森の湧水環境調査・保全を継続的に行っています。特に富沢湧水が 2015 年「白子宿特別緑地保全地区」の指定を受け、湧水と斜面林の保全を行い、白子川の大切な水源として次世代へ引き継いでいきましょう。

2 月 22 日に、松本市長にご報告に伺いました。



平成29年度 川の国応援団美化活動団体感謝状贈呈式
平成30年2月15日 埼玉会館



3. 白子宿特別緑地保全地区“富沢湧水”の保全をすすめています

富沢湧水の斜面上部の保全是、冬の季節に行おうと2月7日に実施しました。大雪の影響でヒサカキの大きな枝折れ、急斜面の竹の枝折れがあり、整備を行いました。同時に梅林周辺のササ刈りも行いました。梅のつぼみがたくさんあり開花前でした。次回は3月10日です。



3月2日に撮った梅林



折れた枝の処理、梅林のササ刈り

3月2日には、富沢湧水の地権者である富沢院長をご案内して、石段を登り斜面林の状態、梅林などを見ていただくことができました。地権者のご理解が得られた活動を継続しています。

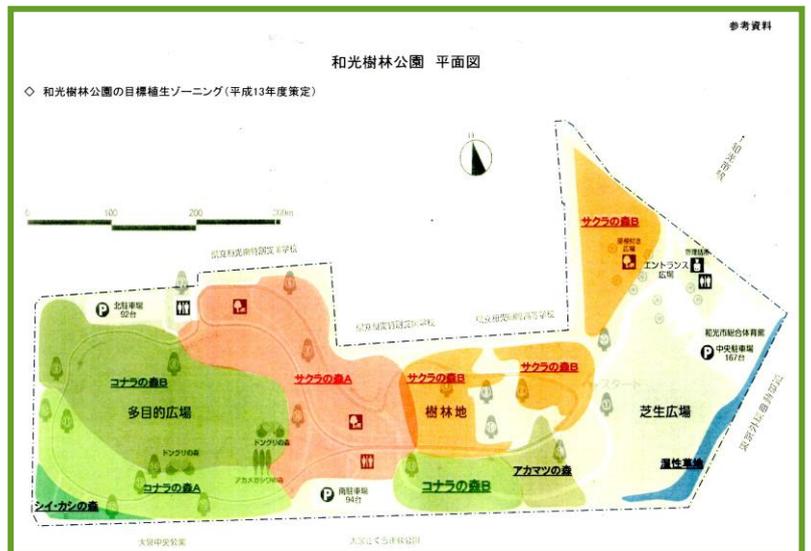
4. 学校応援団として5年生の自然観察体験、3年生の地域を知る学習実施

5年生の林間学校での自然観察の準備として校内での自然観察会を6月に実施、3年生の学区探検では5月に富沢湧水や大坂ふれあいの森を案内し、授業で和光の自然を紹介、地域の学習では、2018年2月に滝坂の湧水、地福寺の筆塚、熊野神社と富士塚、地域に残る自然と歴史を案内し一緒に学びました。



5. 和光樹林公園樹木再生検討会について NO.2

前回の会報でもお知らせしましたが、樹林公園では、桜の木が多く花の時期はたくさんの方々が訪れる公園でしたが、現在は多くが枯れ伐採中で立ち入り禁止区域が設けられています。朝霞県土整備事務所の呼びかけで「和光樹林公園樹木再生検討会」が設けられ、湧き水の会から3名参加しています。平成13年度の樹林公園多目的広場樹林再生計画から当会は関わり、ドングリの森づくり、松林育成、ヒロハアマナ保護区整備などに関わっています。今後の再生に向け、今までの活動をもとに経験を活かし協力していきます。



約21ヘクタールの広さの公園を前回8つの植生形態（ゾーニング）に分割し今回もこの形態が維持されます。

松育成地付近は、根の伐根が行われる予定です。当会で進めてきました樹木の再生として、身近な森で実生から生育してきた樹木を鉢植えで約2年鉢で育て、その後定植し、周囲と共生しながら育てていく方法を提案しています。会としてこの方法で樹林公園の一角で樹林地再生に協力する活動として「樹林公園再生の森づくり」です。各ふれあいの森でコナラ、クヌギ、ムクノキ、エノキ、ミズキ、モミジ等鉢植にし、準備を進めています。